

「PKDプロジェクト」の  
創設者

工業デザイナー  
大阪大学大学院教授  
名古屋市立大学大学院名誉教授

川崎 和男さん

KAWASAKI Kazuo

1949年福井市生まれ。デザインディレクターとして伝統工芸品から眼鏡、コンピューター、人工臓器など幅広く研究・開発、グッドデザイン賞審査委員長など行政機関での委員を歴任。ニューヨーク近代美術館など海外の主要美術館に永久収蔵・展示多数。「NEWSWEEK日本版」の「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれる。ホームページ<http://www.KazuoKawasaki.jp>



COVER COLUMN

国際協力

私の場合

## 国際医療の現場にデザインの力を

これまで家電や眼鏡などを手掛けてきましたが、デザインの力で世界の人の「いのち」を救えないかと、2007年から「PKD (Peace Keeping Design)」というプロジェクトを進めています。これは医学と工学の連携をデザインで補完し、貧困や感染症、紛争など地球規模の課題をより効果的に解決しようと始まった試みです。



川崎氏が開発した注射器。従来の円筒型ではなく、薄い四角形のパッケージにワクチン接種に必要なすべての機能を盛り込んだ

第1弾として発表したのは、開発途上国でのワクチン接種に使う注射器。近い将来、地球温暖化でパンデミックが発生すると言われていますが、すでにワクチン供給数は不足しており保存・管理体制も不完全です。医療スタッフも足りません。そこで医師がいない地域でも住民が正しく使える新しいタイプの注射器を作りました。使用后、麻薬犯罪に悪用されないよう再利用できない仕組みも搭載しました。これは製造から輸送、管理、使用、廃棄まで一貫して接種を容易にするシステムで、発表後、海外のワクチン製造企業や関連メーカーから問い合わせが相次いでいます。

また、災害医療の現場で傷病者の治療優先度を識別するために使う「トリアージ」

の新型タグも開発しました。自治体などから導入の引き合いがあり、今後は海外で使えるよう国際機関などと協力していく予定です。

“戦闘防衛のリテラシー”から生まれた平和維持活動 (PKO) には限界がありますが、デザインという視点から見直すことで改善できる問題はたくさんあります。私は若いときに交通事故に遭い車椅子生活を余儀なくされました。だから、お金持ちや力を持った人々にはではなく、患者・障害者の立場でデザインを見つめてきました。

PKDは、医師たちの膨大な経験から深化を遂げた医療器具を、デザイン手法の導入で進化させること。それは私自身の挑戦でもあります。